

「HOPE-X」航法試験開始へ



実験用航空機ドルニエD0-228型機を視察する関係者

【大樹市小野寺池】科学技術庁航空宇宙研究所(航空研)と宇宙開発事業団(NASDA)の飛行実験機の開所・飛行試験開始が十日午後五時から大樹町製成の多目的航空公園で始られ、二〇〇一年三月十三日までの年間の本実験が開始される。十五日は雨のため、実験用航空機ドルニエD0-228型機による飛行実験は十日以降に延期となる。そのため、関係者は今回の出版無欠ペーシヤトル・HOPE-Xの着陸航法試験の準備に入った。大樹町は一九八六年から航空宇宙産業基盤整備の運動を続け、続けてきたが、実験の開始は大きな一歩を踏出した。(3面へ関連記事)

飛行実験開始は航空研NASDA、連片、地元関係者ら約五十人が出席。最初に海軍航空技術研究所長、福原大樹町長ら九人がテープカットをし、新しく完成した飛行実験棟(平屋建て約六十畳方)の中で開所式と懇話会が行われた。

この中で福原町長は「多目的航空公園使用を始めてもって大々期待をしている。わが町の航空宇宙技術の発展に向けて精いっぱい努力したい」とあいさつ。福原町長は「実験機の完成と実験スタートは昨年六月の多目的航空公園の利用に関する協定書調印に次ぐ大きな喜び。実験後は着陸路の整備もこのため未水く利用してもらいたい」と歓迎の意を述べた。

続いてNASDAの宇宙輸送システム本部宇宙技術試験室ロケットチームが実験の概要説明、



大樹町多目的航空公園内に完成した飛行実験棟のテープカットを行う関係者

航空研の照井安飛行研究している。この時、関係者約三十人が大樹、福原に滞在機を視察した。また、一行はバスに乗り、福原町機に配備されたラック・グライダー(航空機地直尾翼機)、レイサトフカ(レーザー追跡システム)、ドルニエD0-228型機を視察した。

実験は二十日までの予定だが、天候による遅延も考慮し、七月三日まで予定している。NASDAで試作した機体搭載用の位置調整計測器を航空研のドルニエ機に搭載、着陸路への進入角度を変えたり、離陸飛行、水平飛行などをすることで、機体の評価、データを取得を目的にする。

十勝毎日新聞

発行所
十勝毎日新聞社
〒080-8688 帯広市東1条南8丁目
電話一編集22-2121、広告23-2323、総務・販売24-2222
©十勝毎日新聞社 1998

大樹航空公園
飛行実験棟が開所
航空宇宙産業誘致 大きな一歩